

## 鶴市への愛

中津市長 奥塚 正典

昨年、国民文化祭市民ミュージカル山国川<sup>きたん</sup>奇譚「鶴市<sup>あいうた</sup>愛歌」が大好評、強い要望に応え県の支援も得て再演となりました。ミュージカルは、北原人形芝居、洋舞、和踊りを交え構成も豊か、何とんでも出演者が公募した市民の皆さん、会場中に中津の空気があふれ、県下の国民文化祭諸行事における最高の成功例と言われています。演技のすばらしさはもちろん、鶴市の物語が中津市民にどれほど愛されているかがよくわかりました。

鶴市の何にそれほど惹かれるのか。それは、一言で言えば「愛」でしょう。この物語には様々な「愛」があります。お鶴・市太郎の親子の愛、地頭湯屋弾正の領民への愛、人柱となったお鶴・市太郎への村民の愛、地元生きる絆と郷土愛、そしてお鶴・市太郎に対する数百年の時代を超えた中津市民の愛。そしてそれらの「愛」が水、豊作、自然、人間への祈りへとつながっています。

いよいよ、今年も鶴市花傘鉾祭りが間近。こちらは劇ならぬ本物です。19基の花傘鉾と神輿が長い行列となって沖代平野一帯、日本一長い距離を巡行します。子どもから大人まで夏の暑さを吹き飛ばして、横笛や太鼓を鳴らし、お鶴・市太郎の霊を慰め、五穀豊穡をお祈りするのは。人柱を出した湯屋地区の<sup>はやし</sup>囃子方は、皆白装束です。祭り2日目の夜、神輿は山国川に入ります。大井手堰近くの河川敷に花傘鉾が集結、露店が並び、花火が夏の夜空を彩ります。



鶴市花傘鉾祭り 巡行

こうして八八〇余年、地域の皆さんが営々とつないできた歴史と伝統ある祭り。今年はミュージカルの大成功もあって、一段と熱く盛り上がることでしょう。そこには今なお、山国川の安全・無災害と五穀豊穡を祈る市民の切なる願いが込められています。お鶴さん・市太郎さん、私たちはあなた方を忘れません。